

野崎城址・自然観察会レポート

小島 武雄

秋の自然教室は10月14日(月)に行われました。参加者は16名、新しくなったJR野崎駅に集まりました。田代先生は、いつものキャップで、にこやかに現れ、ぎっしりと書き込まれたA4の資料を手渡してくれました。タイトルは、野崎観音～堂山古墳群とありました。

雨でも実施するよ!とっておられました。が、素晴らしい快晴に恵まれました。早速に道端で、サボテンのトゲは葉っぱの話、ひっつき虫は実ですか?種ですか?から始まりました。

野崎参りの終点の「観音浜の碑」前では、チャンチャン♪と天満から大川を屋形船での、東海林太郎の野崎参りの歌が披露されました。アメリカセンダングサ(ひっつき虫)の話で、種はどこまで広がるか?動物についたものは950Kまで、鳥に食べられた種は、たった1K程度の驚き。



たくさんの資料が出ます

太子堂(専応寺)へ向かいます、途中で国道170号と並ぶ昔の東高野街道(東寺から高野山まで)を横切ります。野崎参りは先に太子堂へお参りして行くのが決まりとのこと。ここの石垣には、徳川時代の大阪城の石垣を運んだ、「京極丹波上」の碑文の石がありました。徳川からお礼の井戸がありましたが、門が閉まっています。寺には、花梨の木

があり、その実を、象ではなく猪に食べさせた話は面白く聞きました。

いよいよ急坂を登り野崎観音(慈眼寺)へ、鐘撞堂では、鐘の下に潜り込んで、アリジゴクの生け取りに挑戦。コミカンソウの沢山についている葉が、実は単葉の理由。ニ葉松とゴヨウマツの葉の断面形状の違い。トクサの面白い遊び方。ヤブガラシの蔓、蔓、休み、蔓の反転の話など。次々に手に取っての話、ルーペで見て、さっと絵を書いている説明が続きます。お染久松の話も交え。次に「堂山古墳群」へ、急坂や階段が続き、ちょっとついていけない人も出てきました。



堂山古墳群

古墳群の付近には、アベマキが沢山落ちていました。頂上からは、大阪平野の素晴らしい眺望がひらけて感激。帰り道にオオバヤシャブシを分解して種と葉はどれか?など。目一杯に教えていただきました。最後は、ちょっとキツイ行程でしたが。久しぶりの田代先生のお話に、皆さま満足された様子でした。ちなみに一番近くから来たと思われる、私の歩行計は、13,722歩でした。



絵を描いての丁寧な説明